

今回の調査をつうじてわかった、まちなかの駐車にまつわる代表的なヒアリハットのシーンと地図です
どんな危険が予測されるか、自分の地域に似た場所がないか、考えてみましょう。(切り取って使えます)

シーン 1公園入口そば



シーン 2デリバリー店舗前



シーン 3工事現場



シーン 4小学校そば



シーン 5習い事などの場所



シーン 6登下校の時間帯



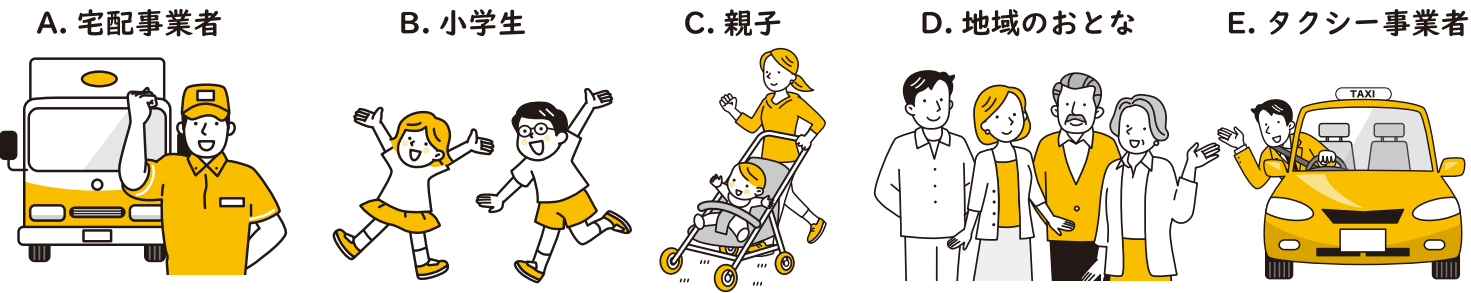
シーン 7幅員の狭い道路での駐車



シーン 8歩道の合流



立場をかえて考えよう A～Eそれぞれの立場で、上のシーンのときどんな危険を察知するか、想像してみましょう。



ヒアリハットを考えてみよう～駐車にまつわる危険予知と改善策を考えよう

自分の身近で似たような場所がないか、どう改善していったら良いかを考えましょう。

親子で…

用意するもの

本カード、付せん、地図※、ペンなど筆記用具

- ①シーンのカードを見ながら、似た場所がないか話し合しましょう。
- ②地図を使ってその位置を確認しましょう。
- ③それぞれのシーンで「気をつけていること」「心配なこと」を付せんに書きましょう。
- ④③に書いたものを情報交換しましょう。
- ⑤③で特に気をつけていることがない場合は、カードの裏面を見ながら、どうしたことに気をつけたら良いか、確認しましょう。

※Google© マップなども便利ですが、無断でコピーなどが著作権を侵害することがあります。以下にみんなで使えるマップをいくつか紹介します。

- 国土地理院地図／国土地理院 地理院地図と明記すること
- OPEN STREET MAP／(C) OpenStreetMap contributors と明記すること

多様な立場の人と模造紙を囲みながら考えることで、新たな発見やより良い解決策が生まれますよ。



事業者や行政と…

用意するもの

本カード、付せん、地図※、ペンなど筆記用具

改善アイデアシート（下記参照／模造紙などで作成）

- ①シーンのカードを見ながら、似た場所がないか話し合しましょう。
- ②地図を使ってその位置を確認しましょう。
- ③それぞれのシーンで「気をつけていること」「心配なこと」を付せんに書きましょう。
- ④③に書いたものを参加者どうして情報交換しましょう。
- ⑤改善するための方法を次のシートで整理して考えてみましょう。

場所		シールを貼ります		
大切にしたいこと				
すでに気をつけていること				
今後取り組みたいこと	一人で始める			
	環境を改善する			



ねらい

子どもの外遊びは、成長・発達に全般的に関わることが示されている一方、日本では外遊びの減少がみられます。その背景として大きいのが、親の遊び環境への懸念といわれています。親の不安感を減らすには、子どもの自立的な移動・行動への信頼感が必要です。ユニセフでは子どもの視点に立ったまちづくりの一つとして、95cm の高さからの環境点検を提唱しており、今回の調査では、95cm の高さからの遊び場までの移動を点検を実践しながら、子どもの自立的移動行動を知るとともに、遊び場までの移動でポイントをまとめました。

今回親子のほか、宅配業者の声をきいてみて、立場によって見え方の違いを知ることが大切だと感じました。

トラックは非常に死角の範囲が比較的に広いので、自分たちが見えてるか見えてないかを実際トラックの運転席に乗車体験してもらうこともよいでしょう。

保護者の皆さんには、子育て中って時間に追われてるので、ママチャリのスピードが出たり、周囲が見えないときもあるので、意識啓発のために、子どもからパパやママの自転車にちゃんと走れているよと子どもの目から見てもらって、親子でルールを守るシールをつくって貼るといった取り組みも考えたいです。また、学校の周辺の止めないでねマークを子どもたちと一緒につくることもできたら良いと思います。

考 察



発行： 昭和薬科大学薬学部臨床心理学研究室・富山大学・国士舘大学

協力：

制作：

このマップは、公益財団法人東京都道路環境保全公社提案公募型研究助成金で作成しました。

2024 年 3 月発行



🏠🌳🏡🌳 95cm の高さからどんなことがわかった？

1 子どもの視点は低い・下に向く

子どもたちは、その車の周りよりは、自分の足元に注意がいっているということがはっきりわかりました。同じ場所で大人と子どもでも写真の撮り方も違いました。

(写真 右／子どもの写真 左／大人の写真)



2 まちなかを遊び場に

こどもは夢中になると、まち歩きの中でも遊び始めたり突然走り出し、登れるところがあれば登り、すき間があればすき間を通ります。路上駐車で敷地側ギリギリに停めているつもりでも、そのすき間をわざわざ通ったりすることがあります。



3 親子は幅をとる

親子ひと組で歩いているときは、問題になりませんが、何組で歩いていると、幅が広がったり、道端で広がったり立ち止まることがあります。

2組並んで歩いていると、大きく車道側に出て通行することになります。



4 子どもの行く所に駐車・駐輪

学校や幼稚園、保育園のほか、公園やスイミングスクールや習い事の場所には送り迎えの自転車や子どもの自転車が路上に多く駐輪されていることがあります。そのために、歩道が通りづらくなることもあります。



☁️🏠🌳🏡 まちなかの駐車について話を聞きました

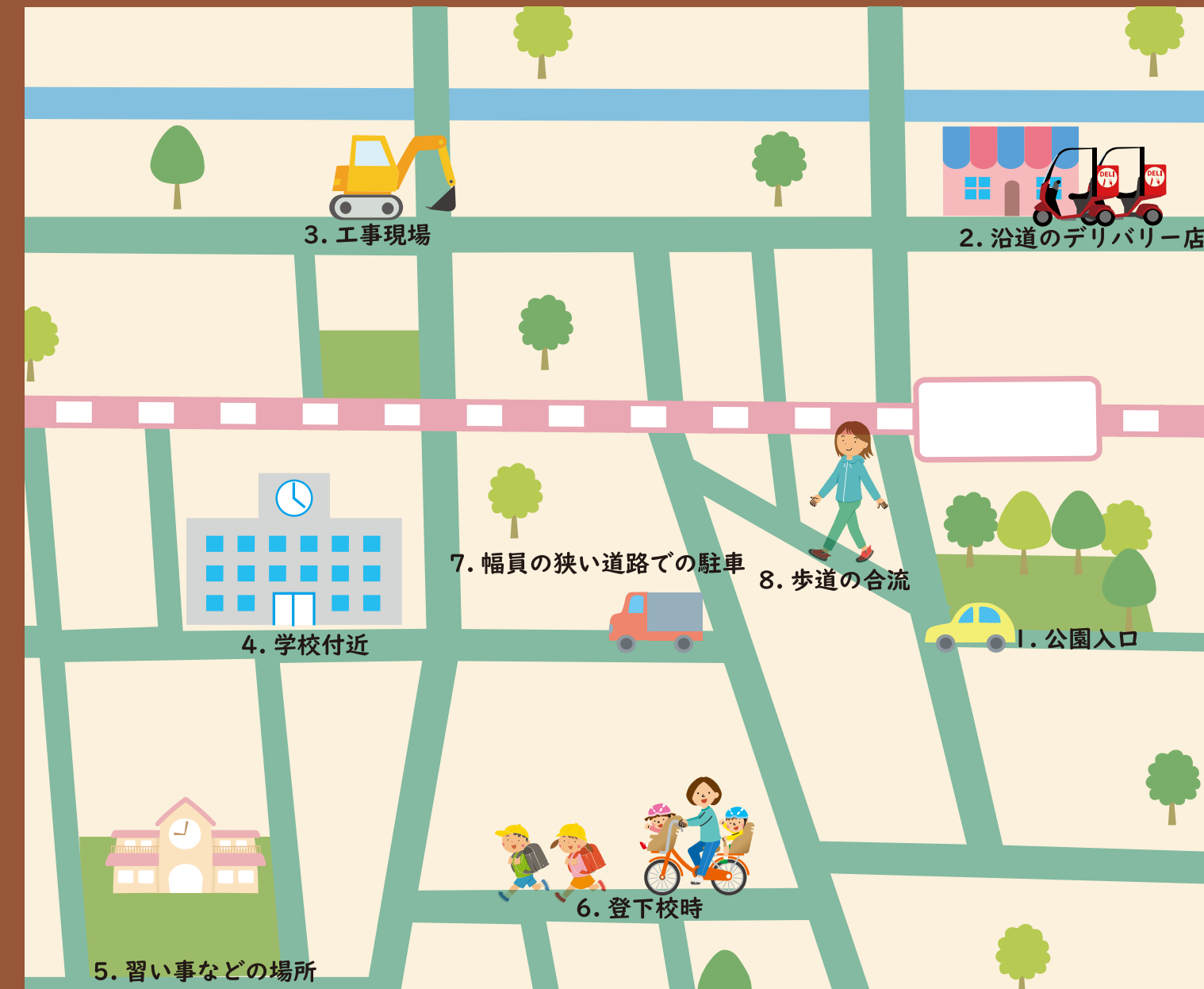
駐車する際には出入口から十分離して駐車するようにしています。

下校時刻に、子どもたちがふざけあったりすることもあるので、子どもの動きに注意して走行しています。かくれんぼなどをしていないか、トラックの下も確認しています。

歩行者分をあけて駐車してあっても、子どもと手をつないで歩くには幅が狭く、結局車道に出て歩いていて、危険に感じます。



まちなかの駐車にまつわるヒヤリハットマップ



オランダの話など先生が紹介したいコラムとして

表面での各シーンで想定されるヒヤリハットの解説です。あくまで一例ですので、ほかにどんな危険があるかも考えてみましょう。

シーン2 デリバリー店舗前 ・車道にはみ出て通行	シーン1 公園入口そば ・駐車のすき間から飛び出し ・車両の下に隠れる
シーン4 小学校そば ・塀と車のすき間を通る ・こどもが隠れる	シーン3 工事現場 ・こどもがしゃがんで遊ぶ ・こどもが隠れる
シーン6 登下校の時間帯 ・車道にはみ出て歩く ・ふざけ合って飛び出す	シーン5 習い事などの場所 ・路上駐車・駐輪が増える ・建物から子どもが飛び出す
シーン8 歩道の合流 ・自転車の飛び出し	シーン7 幅員の狭い道路での駐車 ・車道にはみ出て通行 ・すき間を通る

あなたはどうか？ 宅配事業者のヒアリングやインタビューから、次のヒヤリハットもわかりました。



時間がない！
スピードを出した子ども乗せ自転車



駐車車両の後ろで
立ち止まっている人たち



路上で話している親子グループ